民法

民法のゼミでは、さまざまなトラブル、たとえば契約違反や交通事故、相続争いなどを法律的に解決するルールについて実際の裁判を読みながらゼミ生自身が議論をします。たとえば、友人に貸した本を返してもらえないとか、ネット通販で代金を支払ったのに品物が届かないといったことを経験した方もいらっしゃるでしょう。そんなとき、抽象的に書かれた民法の条文のどれを使ってどうすればトラブルが解決するのかについて、学ぶのが民法です。民法にかかわる問題では、解決方法がいくつも存在するという場面が多いため、こうした複数の条文それぞれの関係も考える必要があるという点が難しいのですが、だからこそやりがいがある法律だともいえます。

受講生の声

- 実際の判例を取り上げて、まずは何が問題となっているかを理解します。テキストや参考文献を 10 点以上読み込んで学説を整理し、レジメにまとめて先生の前で発表します。先生から「なぜそうなる？」という質問や指摘をされて、自分でも理解が及んでいなかった部分に気づきます。そうしてテキストを読み直したり調べ直したりしたことは、よく理解できるようになります。次に同じ問題が出てきたときには、絶対に答えられる自信がつきます。
- 大学の勉強は決まった答えがなくて、説明の整合性がとれていれば、どんな解答でもできるところが面白いです。同じ民法の教科書でも、それぞれ主義主張が違っていて特色があるので、何か調べるときには、いろいろな文献にあたってみることが大事だと学びました。言い回しや書き方の異なる文献を読み比べてみることで、理解も深まります。